

第3期みやぎ観光戦略プランの
平成29年度の実施状況について
(みやぎ観光創造県民条例第12条に基づく報告)



平成30年10月

宮城県経済商工観光部

目 次

1	本報告書について	1
2	観光王国みやぎの実現とみやぎの観光の再生に向けた取組	2
3	「第3期みやぎ観光戦略プラン」の数値目標について	3
4	各数値目標の推移	4
5	平成29年度事業の実施状況	5
	(1) 沿岸部の観光資源の再生と積極的な誘客	6
	(2) 外国人観光客の回復	9
	(3) LCC就航や仙台空港民営化等を契機とした東北が一体となった広域観光の充実	15
	(4) 観光消費効果の高い県外等からの誘客強化	18
	(5) 観光資源の魅力の向上と観光客受入態勢の整備拡充	23
6	基本計画の実施状況の検証	31

1 本報告書について

県は、みやぎ観光創造県民条例（平成23年宮城県条例第8号。以下「条例」という。）第12条第1項の規定により、観光振興に関する施策を戦略的かつ積極的に推進し、観光王国みやぎの実現を図るため、条例第11条各号に掲げる基本方針を踏まえ、観光振興に関する基本的な計画を定めるものとしている。また、知事は、毎年度、基本計画の実施状況を検証し、これを議会に報告するとともに、公表しなければならないこととされている。

この報告書は、条例第12条第3項の規定により、毎年度議会に提出することとされている年次報告である。

参考：みやぎ観光創造県民条例（平成23年宮城県条例第8号）（抜粋）

（施策の基本方針）

第11条 県は、次に掲げる基本方針に基づき、観光振興に関する施策を積極的に推進するものとする。

- （1）魅力あふれる観光地づくり、おもてなしの心の向上等の観光王国みやぎの実現のための取組を、会議の設置等県民総参加による運動として進めること。
- （2）恵まれた自然、歴史、文化、景観、食、温泉その他の観光資源の保全、創造及び活用の取組への支援及び促進を図り、国際競争力及び国内競争力の高い魅力ある観光地の形成を図ること。
- （3）観光に関する施設の整備、道路の整備、交通機能の充実その他の観光に関する社会基盤の整備を促進すること。
- （4）観光事業者への必要な情報提供等の支援、観光事業者相互の連携及び観光事業者と産業観光など地域産業との連携の促進等により観光産業の競争力を強化することで、観光事業者の育成及び経営基盤の強化を図ること。
- （5）観光事業に従事する者等の知識及び能力の向上、観光ボランティア等の育成その他の観光振興に寄与する人材の育成に関する取組を促進すること。
- （6）大学等が観光振興に寄与する人材の育成等のために実施する教育活動へ協力すること。
- （7）外国人観光客の受入環境の整備、市町村、近隣の県等との広域的な連携による取組その他の多様な誘客活動により、東アジアをはじめ海外からの観光客を積極的に誘致し、国際観光の振興及び国際相互交流を促進すること。
- （8）多様な媒体を活用した国内外への戦略的な観光情報の発信その他の情報発信の充実のために必要な施策を実施すること。
- （9）グリーンツーリズムの更なる推進、スポーツツーリズム、コンテンツツーリズム、ヘルスツーリズム、エコツーリズム等の新しい観光分野の開拓、会議、展示会、映画撮影等の誘致及び観光客の受入態勢の整備等の取組を充実すること。
- （10）県民等が主体となって行う食、文化、音楽、芸術等に関するイベント等との連携を図るとともに、これらのイベント等に対する必要な支援を行うこと。
- （11）高齢者、障がい者及び外国人をはじめすべての観光客が安全に、安心して、快適に観光を楽しむことができる態勢の整備を促進すること。
- （12）観光地における生活環境の美化並びに良好な景観の保全及び形成を促進するために必要な支援を行うこと。
- （13）県民総参加による観光振興に取り組む意識を高めるため、観光に関する広報活動、教育活動等を積極的に実施すること。

（基本計画）

第12条 知事は、観光振興に関する施策を戦略的かつ積極的に推進し、観光王国みやぎの実現を図るため、前条に掲げる基本方針を踏まえ、観光振興に関する基本的な計画（以下「基本計画」という。）を定めるものとする。

- 2 知事は、基本計画を定めるに当たっては、市町村、県民等の意見が反映されるよう必要な措置を講ずるとともに、宮城県産業振興審議会に諮問するものとする。
- 3 知事は、毎年度、基本計画の実施状況を検証し、これを議会に報告するとともに、公表しなければならない。

2 観光王国みやぎの実現とみやぎの観光の再生に向けた取組

県では、平成 26 年度から平成 29 年度までを計画期間とする基本計画「第 3 期みやぎ観光戦略プラン」（平成 26 年 3 月策定）を定め、条例の基本方針を踏まえながら、「地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎの実現」及び「多様な魅力を持つみやぎの観光の再生」のため、5 つの取組の方向性に基づき、幅広く各種施策を実施している。

【緊急的・戦略的な取組】

沿岸部の観光資源の再生と積極的な誘客

→ 防災・減災を目的とした旅行や復興を確認する旅行などの「復興ツーリズム」の推進や観光施設等の再建支援，風評の払拭に向けた正確な観光情報等の発信を実施

外国人観光客の回復

→ 重点市場（中国，韓国，台湾，香港）に加え，東南アジア諸国（タイ，シンガポール，マレーシア等），親日国に対する誘客活動や受入態勢の整備，原発事故等の風評払拭のための正確な観光情報等の発信の実施

LCC就航や仙台空港民営化等を契機とした東北が一体となった広域観光の充実

→ 中部以西での知名度向上や旅行意欲の喚起を図るため，東北各県や関係団体等と連携し，東北一体となった観光資源の魅力の発信などの実施

【継続的な取組】

観光消費効果の高い県外等からの誘客強化

→ 首都圏や中部以西等からの誘客を促進するため，インターネットや新聞などのツールを活用した多様な観光の魅力の発信やプロモーション活動の実施

観光資源の魅力の向上と観光客受入態勢の整備拡充

→ 地域の特性を生かした観光メニューの構築やニーズに応じた観光資源の創出及び地域力のさらなる向上を図るとともに，次世代の観光復興をけん引する人材の育成を実施

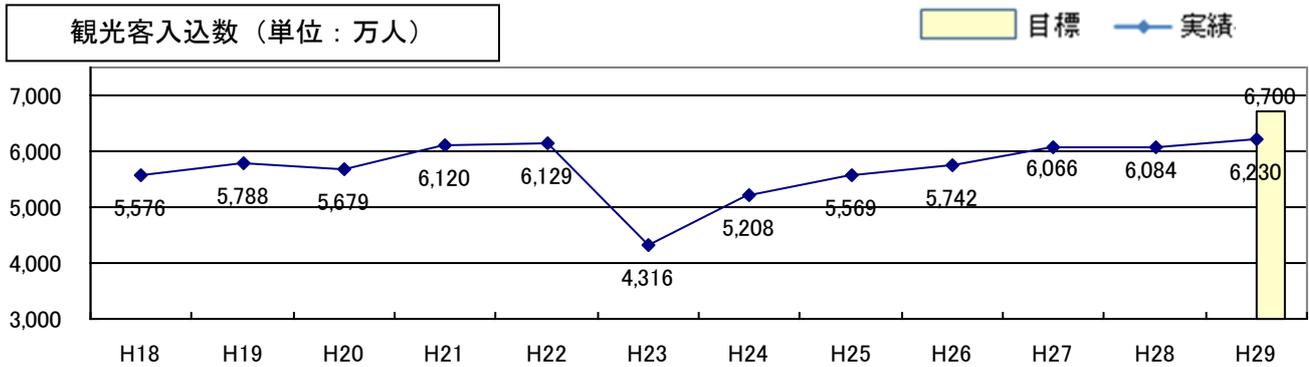
【地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎの実現】
【多様な魅力を持つみやぎの観光の再生】

3 「第3期みやぎ観光戦略プラン」の数値目標について

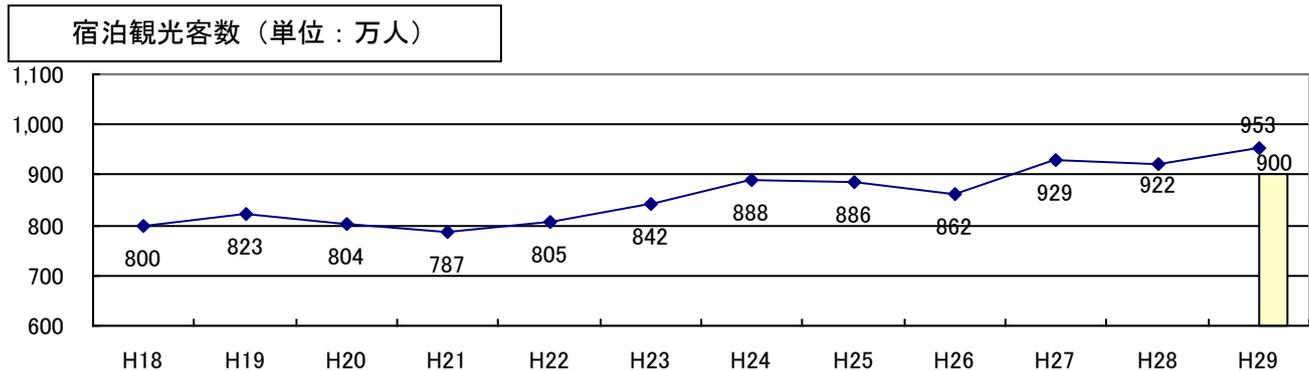
「第3期みやぎ観光戦略プラン」では、東日本大震災前を上回る観光客入込数を目指し、復興関連事業で一時的に増加している宿泊観光客数についても、観光目的での宿泊客や、震災後大きく落ち込んでいる外国人観光客を含めた宿泊観光客を増やすことにより、観光による消費を増やすことを目標として、平成29年における数値目標を設定した。

	第1期プラン (平成19~22年度) 目標(平成22年時)	第2期プラン (平成23~25年度) 目標(震災前の水準に 戻す)	第3期プラン (平成26~29年度) 目標(平成29年時)
① 観光客入込数	6,000万人	6,129万人	6,700万人
② 宿泊観光客数	1,000万人	805万人	900万人
③ 外国人観光客宿泊者数	—	11万人	16万人
④ 観光消費額	6,000億円	5,387億円	6,000億円

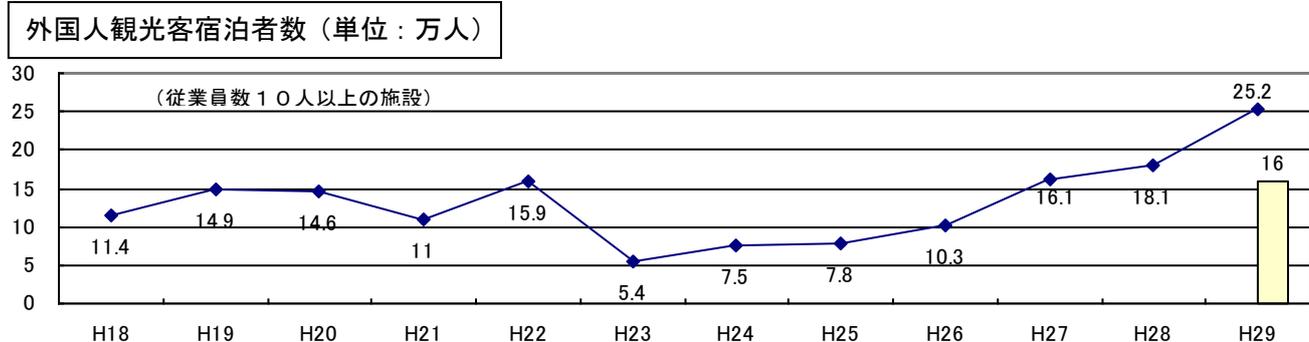
4 各数値目標の推移



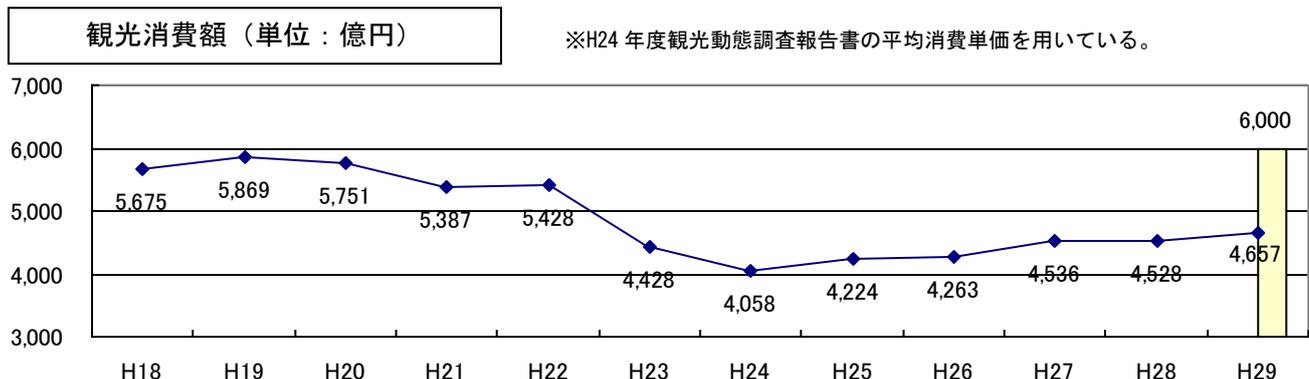
平成 29 年の「観光客入込数」は 6,230 万人で、前年との比較では 2.4%の増加となっており、146 万人増加した。また、震災前の平成 22 年を上回り、過去最高を更新した。



平成 29 年の「宿泊観光客数」は 953 万人で、前年との比較では 3.4%の増加となっており、31 万人増加した。また、震災前の平成 22 年との比較では 18.4%の増加となっており、過去最高を更新した。



平成 29 年の「外国人観光客宿泊者」は、前年との比較では 39.2%の増加となっており、7.1 万人増加した。また、震災前の平成 22 年との比較では 58.5%の増加となっており、昨年に引き続き過去最高を更新した。



平成 29 年の「観光消費額」は 4,657 億円で、前年との比較では 2.8%の増加となっており、129 億円増加した。震災後では過去最高の額となった。

5 平成 29 年度事業の実施状況

観光は、第 1 次から第 3 次産業までの裾野が広い総合産業であり、経済波及効果や雇用効果の大きい分野であることから、宮城県の地域経済をけん引する大きな役割を担っているとともに、「住んでよし」、「訪れてよし」の魅力ある地域づくりのために極めて重要であると位置づけて、「観光王国みやぎ」の実現を目指して戦略的に観光振興施策を推進している。

東日本大震災からの復旧・復興の 7 年目及び第 3 期みやぎ観光戦略プランの最終年となった平成 29 年度は、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故の影響を受けて激減した観光客の回復に向けて、甚大な被害を受けた観光施設等の復旧・再生に向けた支援を継続するとともに、観光キャンペーン等を展開して国内外からの観光客の誘致を図るなど、観光の再生・復興に重点的に取り組んだ。

項目	事業	事業数 (再掲含)	事業費計
(1) 沿岸部の観光資源の再生と積極的な誘客		16 事業	
(2) 外国人観光客の回復		34 事業	
(3) LCC 就航や仙台空港民営化等を契機とした東北が一体となった広域観光の充実		18 事業	
(4) 観光消費効果の高い県外等からの誘客強化		29 事業	
(5) 観光資源の魅力の向上と観光客受入態勢の整備拡充		37 事業	
	合計 (再掲含む)	134 事業	22,409,087 千円
	合計 (再掲除く)	98 事業	21,700,269 千円

(1) 沿岸部の観光資源の再生と積極的な誘客

被災地の復興状況を踏まえ、本県でしか体験できない防災・減災を目的とした旅行やボランティア等で支援をいただいた方々が復興を確認する旅行をはじめとする「復興ツーリズム」の推進、観光施設等の再建支援などの受入態勢整備のほか、風評の払拭に向けて正確な観光情報や復興情報の発信の取組を実施したものの。

(単位：千円)

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
沿岸部交流人口拡大モデル施設整備事業補助金	観光課	401,000	528	沿岸部に集客力の高い宿泊施設や観光集客施設を設置する事業者に対して補助金を交付することにより、宿泊などを伴う消費効果の高い観光客を誘致し、本県沿岸部の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル宿泊施設設置型は、1件交付決定 ・モデル観光集客施設設置型は、1件交付決定 	
沿岸部観光復興情報等発信事業	観光課	100,000	99,954	本県にとって最大の市場である首都圏を中心に、沿岸部の観光スポット・イベントや農林水産物に関する情報をマスメディアを複合的に活用するメディアミックスの手法により発信し、沿岸部の交流人口拡大及び地場産品の販路回復を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・PR動画制作・配信 ・テレビ番組の制作・放送 「食彩の王国」内PR露出 「吉田頼の酒場放浪記」(全5回) ・東京メトロ車内広告の実施 ・旅行情報サイト内広告実施 ・ウェブ広報の実施 	
「みやぎ観光復興支援センター」及び「みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター」設置事業	観光課	39,500	39,500	「みやぎ観光復興支援センター」及び「みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター」を設置して受入態勢を整備するとともに、旅行会社や学校、企業に対して被災地でのボランティアツアーや研修プログラムに関わる情報を提供し、被災地の受入先とマッチングを行う。	<p>【みやぎ観光復興支援センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災地に関する情報の収集及び発信、宮城県を訪れたい旅行者と受入先とのマッチング業務を実施した。また、H28まではWEB上の情報発信・PRはブログで行っていたが、H29よりブログに加えホームページ「みやぎ海への旅案内」を開設・運営し、情報発信の強化を行った。 ・H29マッチング実績13件、277人 ・ホームページ ページビュー数53,694件、セッション数17,131件 <p>【みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾からの教育旅行誘致に向けては、現地プロモーションへ参加し、大学等への招請事業を県とともに実施した。 ・H29マッチング実績79校、3,748人(催行日ベース) 	
観光施設再生・立地支援事業補助金(再生支援型)	観光課	27,000	0	震災により被害を受けた観光事業者が行う施設・設備等の復旧に対して、経費の一部を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・主に旅館・ホテル等宿泊施設に対して交付決定1件 	
観光施設再生・立地支援事業補助金(立地支援型)	観光課	0	0	特に復旧の遅れている沿岸部の小規模宿泊施設の復旧・再建を促進するために、複数の事業者が共同で宿泊施設を設置する際の経費の一部を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・沿岸部の関係機関(市町役場、観光協会、商工会議所・商工会等)に対し制度の周知を行った。 	

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
みやぎエコ・ツーリズム推進事業	観光課	6,282	6,281	観光地におけるシャトルバス運行事業に対する助成を行う。また、教育旅行のメニューとしてニーズの高い産業観光、自然観光を体験して学ぶエコツーリズムの観光資源の発掘を行うとともに、発掘した観光資源を整理し、メニュー構築を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 観光地でのシャトルバス事業に対する助成については、3事業者に対して助成し、計86便、674名の利用があった。 県内受入施設を対象とした情報交換会を開催し、エコツーリズム体験受入に関する課題等の情報共有を行った。 県内中学校(79校)及び県外小中学校及び高等学校(21校)に対して学校訪問を行い、エコの視点を取り入れた体験学習のPRを実施した。 	
新聞・雑誌等の活用による誘客促進事業(観光復興緊急対策事業)	観光課	6,036	5,829	新聞や雑誌等を活用した観光情報の提供やパンフレット等の作成	<ul style="list-style-type: none"> 雑誌「ハコラク」への記事掲載や新聞等への広告掲載のほか、観光の復興状況を発信するため、冬の観光パンフレットを製作した。 	
三陸地域広域連携インバウンド対応事業	観光課	37,500	7,020	三陸地域については、平成31年度の全面開通に向けて三陸道が延伸されており、気仙沼大島架橋工事でも平成30年度に竣工する予定であるなど、当該地域の観光客増大が期待できる状況にある。また、当該地域は広域観光周遊ルートである「日本の奥の院・東北探訪ルート」にも指定されており、外国人旅行者の受入環境整備が必要となってくることから、多言語案内板を製作する。	気仙沼市及び南三陸町内の計10ヶ所に多言語案内板を設置した。表示言語は日本語・英語・簡体字・繁体字・韓国語の5カ国語とした。	
松島水族館跡地利用施設整備事業	観光課	500	414	松島湾エリアの主要観光施設で閉館した松島水族館の跡地を有効活用し、松島湾エリアの賑わいを再構築するため、民間事業者を対象に公募を行い、選定された事業者が行う施設整備に対し支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者を対象に事業公募を行い、事業者選定を行った。 	
震災復興広報強化事業	震災復興推進課	36,312	35,948	震災復興に向けた県内各地の取組や復興の様子を収集し、インターネットや紙媒体、パネル展示などにより、県内外に発信することで、支援への感謝を示すとともに震災の風化防止、中長期的な支援意識や復興の気運の維持向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 広報紙「NOWIS」、震災復興ポスター、WEBサイト「みやぎ復興情報ポータルサイト」、「東日本大震災復興情報コーナー」(県庁18階広報展示室内)など、様々な広報媒体を活用し、復興情報の発信を図った。 	
首都圏復興フォーラム運営事業	震災復興推進課	1,500	1,500	東日本大震災の風化防止と震災復興に対する全国からの幅広い支援の継続を訴えるため、青森・岩手・福島の被災各県と連携し、被災地の復興状況や復興に向けた取組を首都圏の住民及びマスコミに広く情報提供するフォーラムを開催する。	<ul style="list-style-type: none"> 東北4県・東日本大震災復興フォーラムの開催 	
高規格幹線道路、地域高規格道路の整備促進	道路課	20,381,200	19,742,696	沿岸部の復興に大きく寄与する高規格幹線道路(三陸縦貫自動車道、常磐自動車道)、地域高規格道路(みやぎ県北高速幹線道路)を整備し、産業・観光振興、地域間交流の活性化等を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 高規格幹線道路について、三陸沿岸道路「南三陸海岸IC～歌津IC」及び「大谷海岸IC～気仙沼中央IC」が開通した。 地域高規格道路についてみやぎ県北高速幹線道路の整備を推進した。 	

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
交通安全施設整備事業	道路課	124,521	81,168	復興まちづくりによる新たな市街地形成に伴いアクセスする道路や主要施設の位置が変更されることから、周辺道路利用者を円滑かつ安全に目的地に交通誘導する必要があるため、道路案内標識等の交通安全施設の設備を行う（道路案内標識等の設置計画の策定、交通安全施設、津波避難誘導施設の整備）	・復興まちづくり計画との整合を図るため、関係市町村と調整し、新たな市街地への案内標識等の整備を推進した。	
次代につながる産業復興ツーリズム推進事業	東部地方振興事務所	2,000	1,572	水産業や製造業など地域の産業復興の取組をさらなる観光の振興につなげ、子どもたちに地域産業の魅力を発見し理解を深める機会を提供して次代の地域を担う人材の育成につなげるため、以下の事業を実施した。 1 見学等を受入可能な産業施設や事業所を紹介する「産業学習マップ・ハンドブック」の作成 2 地域の児童・生徒が産業現場を巡る産業学習旅行 [3回] 3 高校生を対象とした地域産業モニターツアー [1回]	1 「産業学習マップ・ハンドブック」の作成 ・完成時期 平成30年3月上旬 ・作成部数 マップ3,000部、ハンドブック1,000部 ・配布先 県内小中学校・高校、県内の旅行代理店等 ・掲載数 約70事業所・施設 2 地域の児童・生徒が産業現場を巡る産業学習旅行 ①石巻市 ・実施日 平成29年11月10日(木) ・参加者 北上小学校の児童 15人 ②東松島市 ・実施日 平成29年8月8日(火) ・参加者 鳴瀬桜華・宮野森小学校の児童 13人 ③女川町 ・実施日 平成29年8月10日(木) ・参加者 女川小学校・女川中学校の児童・生徒 14人 3 高校生を対象とした地域産業モニターツアー ・実施日 平成30年3月26日(月) ・参加者 石巻市立桜坂高等学校の生徒 12人(うち引率教員1人)	
スタッフブログ「南三陸&気仙沼を体感!“来て見て浜ライン”」	気仙沼地方振興事務所	—	—	気仙沼・本吉地域の復旧・復興情報や見所、イベント情報などについて、取材を通じて情報収集し、ブログにより情報発信を行う。	更新回数 22回 閲覧数 241,075	
仙台管内の観光と物産PR事業 in 栃木	仙台地方振興事務所	2,000	1,863	海に面していないが、宇都宮市がすし外食費用日本一であることや、宇都宮市-仙台市間は日帰り圏内であるという特性を活かし、海を中心とした観光スポットや食の魅力、水産加工品を中心とした物販などを通じて、水産品の消費拡大及び沿岸部の観光客誘客促進を図る。	・「とちぎ”食と農”ふれあいフェア」での観光と物産をPRした。 ・銀行等と連携し、水産加工品の販路開拓を目的に商談会を実施した。	
	16事業	21,164,451	20,024,273			

(2) 外国人観光客の回復

主要ターゲットである東アジア市場（台湾、中国、韓国、香港）を中心に、旅行博覧会などでの各種プロモーションや、教育旅行誘致に向けた取組を実施するなど積極的な誘客活動を展開し、併せて他県等と連携したインセンティブツアーの誘致や原発事故等の風評払拭のための正確な観光・復興状況の継続的な情報発信を行うとともに、外国人観光客が過ごしやすい環境整備の促進などに取り組んだ。

(単位：千円)

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
インバウンド誘客拡大受入環境整備事業	観光課・アジアプロモーション課	49,500	44,657	外国人観光客の誘客を強力に推進するため、これまで実施している観光プロモーション等を継続するほか、東京オリンピックの県内開催等を踏まえ、外国人が安心して旅行しやすい環境の整備に積極的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・松島“湾”ダーランドをPRする多言語対応観光WEBサイトを運営したほか、松島湾エリアのサイクリングコースをPRする動画を作成した。 ・無料Wi-Fiを設置する宿泊施設や観光施設等で構成される団体に対する助成を行った。また、外国人観光客に対するおもてなしや接客英会話・中国語会話を学ぶ研修会を実施した。 ・無料Wi-Fi 交付決定4件 ・研修会30回 受講者延べ330人 	
外国人観光客受入環境整備促進事業	観光課	23,100	4,581	観光客が利用する県内の宿泊施設や観光集客施設等において、無料公衆無線LANを設置や外国語表記の整備を行う事業者に対して経費の補助を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の宿泊事業者、観光集客施設、路線バスの車両に対して交付決定30件。 	
三陸地域広域連携インバウンド対応事業	観光課	37,500	7,020	三陸地域については、平成31年度の全面開通に向けて三陸道が延伸されており、気仙沼大島架橋工事も平成30年度に竣工する予定であるなど、当該地域の観光客増大が期待できる状況にある。また、当該地域は広域観光周遊ルートである「日本の奥の院・東北探訪ルート」にも指定されており、外国人旅行者の受入環境整備が必要となってくることから、多言語案内板を製作する。	気仙沼市及び南三陸町内の計10ヶ所に多言語案内板を設置した。表示言語は日本語・英語・簡体字・繁体字・韓国語の5カ国語とした。	○
二次交通利用拡大事業	観光課	41,000	40,628	民営化した仙台空港の利用拡大、観光周遊の推進に向け、復興観光拠点都市圏を中心とした県内の二次交通の調査・検討の実施及び、プロモーション強化、滞在コンテンツの充実・強化を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台空港から観光地へ向けた直行バス（岩手県北バス）を中心とした二次交通について、外国人の利用実態や利用意向等の調査事業を実施した。 	
MICE（国際会議等）の誘致推進事業（コンベンション都市推進事業）	観光課	2,401	2,401	多くの外国人を一時に招致できるMICE（国際会議等）の誘致を積極的に実施し、高い経済波及効果を生み出すため、専門のスタッフを抱え誘致事業に精通した団体への補助を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・コンベンション開催経費の一部を支援し、開催誘致を促進した。（国内会議：18件、国際会議：11件 合計：29件） 	
海外からの旅行会社・マスコミ等招請による安心・安全情報発信事業（外国人観光客災害復興緊急誘致促進事業）	アジアプロモーション課	13,500	8,856	市場規模が大きく、本県重点市場である中国からの誘客について、知名度の高い東京都や北海道と連携した、旅行会社やマスコミ等の招請事業や現地での商談会を開催する。また、JR東日本と連携し、風評の影響が強い香港をはじめ四カ国からメディア等を招請し、イメージアップを図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・上海及び北京で現地観光セミナー及び商談会を実施したほか、招請事業を行った。 商談会参加者 （上海）日本側48人、中国側77人 （北京）日本側35人、中国側85人 招請 旅行会社8人メディア2人 ・JR東日本と連携し招請を行った。 招請 旅行会社8人メディア8人 	

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
海外での旅行博覧会出展や現地旅行会社訪問等によるプロモーション事業（外国人観光客誘致促進事業）	アジアプロモーション課	23,367	22,622	海外からの観光客誘致のため、旅行博覧会への出展や現地旅行会社訪問をはじめ、マスコミ等の招請による観光情報の発信などの多様なプロモーション活動を行う。	・海外旅行博（ITF,TTF 等）への出展や旅行会社訪問等によるプロモーション活動のほか、台湾サポートデスクや新設した Facebook による正確かつ継続的な観光情報の発信を行った。	
インセンティブツアー誘致促進事業	アジアプロモーション課	5,000	5,000	アジア地域を中心として海外へのインセンティブツアーが増加していることから、このインセンティブツアーを招致するため、東北観光推進機構と連携し、台湾でのプロモーション活動のほか、関係者の招請を行う。	・東北観光推進機構と連携し、台湾からインセンティブツアーに係る旅行エージェント等を招請し、インセンティブツアーの誘致拡大を図った。 招請 6社6名	
香港等からの観光客誘致促進事業	アジアプロモーション課	17,985	17,708	震災による風評被害が根強い香港からの観光客を回復するため、広告の実施や観光セミナーの開催、メディア招請等のプロモーションを行う。	・バスラッピング広告を34台×4週間に渡り実施した。 ・現地セミナー 参加者88名 ・香港から招請したテレビ局 TVB の番組に宮城の観光地等が2回に分けて取り上げられた。 視聴率 1回目17.7%,2回目18.4%	
他県連携等による外国人観光客誘致促進事業	アジアプロモーション課	28,600	28,572	海外市場における認知度向上のために、PR効果の高い広域連携による一体的な取組を実施し、隣県や仙台市と連携し情報発信・プロモーションを行う。	・首都圏在住留学生モニターツアー事業では山形県と連携し台湾・中国・タイ向けに SNS 等で両県の観光情報を発信した。 ・韓国旅行会社招請事業では山形県と連携し旅行会社を招請してスキー・ゴルフといった SIT に特化した旅行商品の造成を促進した。 ・インバウンド向け防災観光基盤整備事業では仙台市と連携しインバウンド向けに防災観光プログラムを整備するとともに、アーカイブや施設情報を掲載したホームページを作成 ・南東北連携によるタイ向け観光情報発信事業では山形県・福島県・仙台市と連携しタイ向けテレビ番組を制作・放映するとともに番組と連動した OTA キャンペーンを実施した。	
インバウンド誘致促進事業	観光課・アジアプロモーション課	134,076	134,008	外国人旅行者誘致の更なる強化を図り、従来から取り組んできた誘客事業に加えて、宿泊者数増加に寄与する効果的な事業を実施する。	・広告掲載やインフルエンサー招請を実施し、首都圏及び北海道からの広域周遊を促進した。 ・ミシュランガイド宮城2017特別版の英語WEBサイトを開設した。 ・仙台空港を利用する訪日外国人向け情報発信メディア開設・アプリ配信を行った。 ・中国向け旅番組を制作した。 ・韓国を中心とした国内外からの誘客促進を目的に「宮城オルレ」を実施するため、社団法人済州オルレと協定を締結した。	
特定目的外国人観光客誘致促進事業	アジアプロモーション課	11,500	11,496	中国のスキー旅行や韓国のゴルフ旅行など、SIT の誘客拡大を図り、プロモーションや受入環境整備に取り組む。	・中国のスキークラブやメディアの招請を実施し、県内スキー場を紹介する番組を制作した。 ・韓国からの観光客受入を促進するため、ゴルフ場や宿泊施設を対象にセミナーを開催し、多言語ツールを制作した。	

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
東北観光推進機構等と連携した広域観光の取組強化	アジアプロモーション課	15,000	15,000	大都市圏や海外から東北への誘客を図るため、東北各県や東北観光推進機構等と連携した取組を行う。	・東北の認知度を向上させ、国内外からの観光客の誘致を推進するため、国内外における観光セミナーの開催や国内外における観光プロモーション等を、一体となって実施した。	
航空キャリア提携旅行エージェンツ誘客促進事業	アジアプロモーション課	10,000	9,999	航空キャリア・提携する旅行会社を招請し、国際線の拡充に向けた誘致に取り組むとともに、旅行会社による広域周遊ルートを経た旅行商品の造成を促進する。	・台湾・中国・タイ・韓国・香港・ベトナムを対象に航空キャリア・提携する旅行エージェンツの招請を実施した。 航空会社 8社、旅行会社 126社	
デジタルコンテンツプロモーション事業	アジアプロモーション課	21,600	21,600	広域観光周遊ルートを経た東北の魅力映像・画像により情報発信し、認知度の拡大を図るとともに、マーケティングデータを収集・分析することにより活用を図る。	・東北の夏の魅力をPRする動画を制作し、H28年度に制作した秋冬の動画と併せて動画広告を行った。 再生回数 秋篇 1,238万回、冬篇 1210万回、夏篇 769万回 ・統計データを収集してマーケティングデータベースを構築し、その分析手法についての人材育成研修を開催した。	
レンタカーを活用したドライブ周遊観光促進事業	アジアプロモーション課	8,300	8,300	訪日外国人のレンタカーによるドライブ周遊観光を促進するため、受入環境の整備を行うとともに海外におけるプロモーションを行う。	・多言語によるドライブ冊子の制作やホームページの整備により環境整備を進めるとともに、著名タレントの招請や台湾・タイ等の旅行博でのプロモーション等により東北ドライブの魅力発信を行った。	
冬の東北とスノーコンテンツ等発信事業	アジアプロモーション課	15,000	14,995	冬の東北の魅力である樹氷・スキー場・冬祭り等のプロモーションを展開するとともに、外国人観光客受入の体制整備を行う。	・コンテンツ磨き上げのワークショップを開催した。 ・台湾、韓国、中国、豪州、タイを対象に広告やメディア招請を実施した。 ・国際商談会やイベントに出展し、冬の東北の魅力を発信した。	
東北太平洋沿岸における受入整備事業	アジアプロモーション課	19,918	19,918	青森県・岩手県・宮城県・福島県・仙台市の太平洋沿岸地域においては東日本震災後の観光客入込の回復が遅れており、特に外国人旅行者においては風評被害の影響もあり著しく低調な状況が続いていることから、「復興ツーリズム」の推進による外国人観光客の入込拡大を図るため4県1市が連携して対象地域内における受入体制の整備、受入実証実験、プロモーションを行う。	・ホームページの整備及び語り部研修等の開催により受入環境整備を進めるとともに、受入実証実験によるモデルコースの磨き上げ、ブロガー等の招請による情報発信を行い魅力ある観光地としての認知度向上を図った。	
韓国・中国観光客誘致促進支援事業	アジアプロモーション課	1,500	1,500	韓国及び中国からの観光客誘致のため、(公社)宮城県国際経済振興協会の現地事務所を通じて、効果的な支援を実施する。	・韓国では、風評払拭・観光客誘致のため、旅行博などのイベントに参加し、宮城県の観光PRを実施した。 ・中国では、旅行博などのイベントに参加したほか、航空会社と共同で大連空港においてイベントを開催し、観光PRを実施した。	
多言語対応パンフ、ホームページ等整備促進事業(国際観光モデル地区観光施設整備事業)	アジアプロモーション課	2,508	2,436	市町村等と連携し、多言語対応パンフレット、ホームページ等の作成及び案内看板等を整備する。	・宮城県国際観光テーマ地区推進協議会会員市町が作成する多言語対応パンフレットや案内看板等の整備に対する支援を実施したほか、栃木・南東北国際観光テーマ地区観光推進協議会において、タイ向け観光パンフレットを作成した。	

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
海外交流基盤再構築事業	国際企画課, アジアプロモーション課	-	-	震災により大幅に減少した外国人観光客の誘致を図るため、海外政府要人の来県を促すとともに国際会議や訪問団等を積極的に受け入れる。	・海外からの賓客等の受入 27件	
海外交流基盤強化事業	国際企画課, アジアプロモーション課	11,668	11,615	中国吉林省、米デラウェア州、露ニジェゴロド州等海外自治体等との関係を強化するため、訪問団の派遣や受入れを行う。併せて、訪問団への地元経済界の参加を促すことにより、本県のPR等を効果的に実施し、企業の販路開拓を下支えする。	・友好省州等海外自治体への職員、訪問団の派遣 4回 ・友好省州等海外自治体からの職員、訪問団の受入 4回	
みやぎ海外ネットワーク形成事業	国際企画課	-	-	本県にゆかりのある海外在住の外国人や日本に興味を持つ外国人等に向けて、SNSにより宮城の魅力を外国人目線で情報発信を行い、インバウンドを推進する。	・Facebook 投稿件数 167件 ・インスタグラム投稿件数 136件	
ハラール対応食普及促進事業	食産業振興課	15,892	15,269	ムスリムに対応できる飲食店等の施設の増加を図り、県内事業者が生産した商品のテストとPRを行うため、セミナーや試食会の開催、ハラール関連の展示会への出展等を行うほか、海外のムスリムに向けた県内のハラール対応レストラン等の情報発信などを実施する。	・ハラール対応セミナー(2回開催) ・仙台ハラール視察ツアー(1回開催) ・ムスリム試食会(3回開催) ・ムスリムモニターツアー(2回開催) ・国内展示会出展(1回開催) ・海外テストマーケティング(1回開催) ・仙台バイヤー商談会(1回開催) ・レシピ集及び飲食店等を紹介するトラベルガイドの作成	
仙台空港利用促進事業	空港臨空地域課	13,979	12,237	仙台空港の路線充実・拡大のため、エアポートセールスを行うほか、航空機を使った旅行需要を喚起するための利用促進事業を行う。	・知事による韓国・中国(大連)でのトップセールス等を実施した。 ・平成29年度の仙台空港乗降客数は、スカイマークによる「仙台-神戸線」の就航や、ピーチによる「仙台-札幌線」、「仙台-台北線」の就航により、国内線・国際線共に路線の拡充が図られ、前年度より約27万人増の約343万人となった。	
仙台空港地域連携・活性化事業	空港臨空地域課	29,989	25,963	仙台空港民営化後の、地域にとって望ましい空港運営と周辺地域の活性化に向けて、地域と空港運営権者との連携体制を構築し、関係者が一体となって、空港振興策を展開することにより、空港機能の拡充と旅客・貨物需要の創出を図り、仙台空港を核とした地域経済の活性化を促進する。	・若者を対象にパスポート取得費の一部を助成するキャンペーンを実施し、仙台空港国際線を利用した海外旅行の促進を図った。 ・タウン情報誌等のメディアを活用し、仙台空港や就航地の魅力を情報発信し、認知度向上を図った。	
アクセスガイドブック作成事業	大河原地方振興事務所	1,449	1,446	平成28年度「仙南地域滞在型ツアー造成事業」で作成した英語版アクセスガイドブックをもとに、繁体字(台湾向け)、簡体字(中国向け)、タイ語版を作成し、仙南地域への外国人観光客の誘客を図る。	・繁体字(台湾向け)、簡体字(中国向け)、タイ語版のアクセスガイドブックを各2万部作成。 ・アクセスガイドブックを管内主要観光地に配架したほか、(一社)宮城インバウンドDMOや各市町の海外営業活動等で活用。	

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
仙南地域の観光を支える人材育成事業	大河原地方振興事務所	7,000	6,986	今後の仙南地域の観光を支える人材育成として、基礎・おもてなし対応・リーダー育成の3つの研修を行い、総合的に人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・(一社)宮城インバウンドDMOへの委託事業として、県南4市9町の観光関係者を対象に、下記研修を実施した。 ①観光地域づくりの意識啓発研修(9月～1月、計6回、延べ188名参加) ②おもてなし対応力向上研修(10月～3月、計6回、延べ85名参加) ③観光地域リーダー育成研修(10月・2月、2回(各2日間、計4日)、延べ23名参加)。 	
観光客に魅力ある受入体制整備事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	784	696	観光客入込数の増加が期待される栗駒山周辺及び伊豆沼・内沼を中心に、観光客が再び訪れたいと感じる受入体制の整備を図る。また、関係機関等と連携しながら積極的に情報発信を行うとともに、イベントやモニターツアーを通じて誘客を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・花山そば祭りの開催を支援した。 ・関係団体によるワーキングを開催した。 ・誘客のためのクーポンチラシを2回発行し、3,684名の利用があった。 ・各種イベント及び観光キャンペーンにおいて誘客PRを行った。 ・岩手県、秋田県と連携して作成した「栗駒山トレッキングMAP」を増刷した。(1,000部) ・「栗原地域観光セミナー：観光促進ネット活用講座」を開催した。(出席40名) ・関係機関と連携し、観光資源調査を行った。 	
アイラブオオサキ4ヶ国語対応動画制作プロモーション業務	北部地方振興事務所	10,000	9,990	バーチャルトリップサイト「アイラブオオサキ」(4ヶ国語対応)に新たな観光素材を追加するとともに、鳴子温泉の魅力のPRする動画を追加制作し、国内外への情報発信を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> ・バーチャルトリップサイト「アイラブオオサキ」(4ヶ国語(英語、韓国語、中国語(繁体字)、中国語(簡体字)対応))に鳴子峡の紅葉、温泉の色等の動画を追加。 ・観光PR動画(大崎の春、夏及び秋を追加制作)をYouTubeで配信 ・動画に出演したタレントのSNS等で情報を拡散 	
外国人観光客案内ガイド育成研修	東部地方振興事務所	1,255	1,254	地域の外国人観光客案内ガイドの育成・確保を図る「外国人観光客案内ガイド育成研修」を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実施日：平成29年11月26日(日)、12月10日(日)、平成30年1月14日(日)、1月21日(日)、2月4日(日)、2月12日(月・祝)の計6回 ・参加者：石巻圏に在住の外国出身者等 17名 ・実習場所：石巻市、東松島市、女川町の観光スポット等 	
インバウンド観光講演会	東部地方振興事務所	90	89	地域におけるインバウンド推進に向けた機運の醸成を図るため、「インバウンド観光講演会」を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実施日：平成30年1月9日(火) ・場所：県石巻合同庁舎5階大会議室 ・参加者：観光関係者、地域住民等約100名 	
外国人観光客おもてなしセミナー	東部地方振興事務所	655	646	外国人旅行者とのコミュニケーション向上に向け、独自に作成した「指差し英会話シート」を活用した「外国人観光客おもてなしセミナー」を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実施日：平成30年1月30日(火)、2月15日(木) ・場所：県石巻合同庁舎5階大会議室 ・参加者：飲食・宿泊等観光関係事業者等 約110名 	

事業名	担当課	予算額	決算 見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
インバウンドの推進	気仙沼地方振興事務所	1,100	975	年々増加する訪日外国人観光客の受入環境の整備を図るため、インバウンド推進に向けた受入環境の整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 管内の観光事業者等を対象として、接客英会話フレーズの習得や外国人講師とのロールプレイングなどの研修(同内容で気仙沼市及び南三陸町で1回ずつ)を行った。 観光事業者が外国人と接客する際のツールとして、管内の食材や料理に関する多言語指さしシート(英語、韓国語、繁体字、簡体字)を作成、配布した。 気仙沼観光推進機構(DMO)インバウンド部会に参画し、情報共有を中心に連携を図った。 	
	34 事業	575,216	508,463			

(3) LCC就航や仙台空港民営化等を契機とした東北が一体となった広域観光の充実

今後拡大が期待できる国内外からのLCC就航や仙台空港民営化、北陸新幹線や北海道新幹線の開業等を契機として、中部以西での知名度の向上と「東北へ行きたい」という旅行意欲の喚起を図るとともに、東北各県及び東北観光推進機構等の関係諸団体と連携し東北が一体となった観光資源の魅力の発信などに取り組んだ。

(単位：千円)

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
航空会社と連携した観光キャンペーン (H29で終了)	観光課	49,091	48,621	仙台空港の民営化を契機として、航空機を利用した中部以西からの観光客の誘客強化を図るため、航空会社と連携した航空版の観光キャンペーンを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・関西地区路線をキャンペーンの対象に設定して、本県の認知度拡大を図るため、ポータルサイト開設やPR動画等のWEB活用の他、就航地域テレビ局の情報番組等、メディアを通じた本県観光情報の発信を実施した。 ・キャンペーン期間中の関西地区路線の搭乗者数が約47,500人増加した。 	
短期集中型の官民が一体となった仙台・宮城観光キャンペーン推進事業(仙台・宮城観光キャンペーン推進事業)	観光課	20,000	20,000	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会の主要な構成員として、地域や旅行関連事業者と連携し、協議会と一体的に観光流動の活性化及び観光開発の推進に向けた取組を行い、誘客促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドブック及びポスターをJR東日本の首都圏における主な駅などに設置・掲出し宣伝した。 ・首都圏、北海道函館市のほか、北陸では初となる富山県富山市及び石川県金沢市で誘客キャラバンを実施した。 ・受入態勢整備としては、東日本高速道路株式会社と東北6県が連携し、東北6県全域を対象地域としたスマートフォン版スタンプラリーを実施した。 	
みやぎ路誘客大作戦～秋色満載みやぎ・やまがたの観光～	観光課	-	-	東北自動車道国見サービスエリア等において、臨時観光案内所を設置し、観光情報の発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の観光シーズンを前に、国見SA(下り)において、山形県と臨時観光案内所を共同設置し、観光情報の発信を行った。 	
冬の観光キャンペーン	観光課	25,000	25,000	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会の主要な構成員として、地域や旅行関連事業者と連携し、協議会と一体的に観光流動の活性化及び観光開発の推進に向けた取組を行い、冬の重点的な誘客促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・観光PR動画の制作・配信を行ったほか、PR動画と連動したプレゼント企画を実施した。 ・みやぎおかみ会と連携し、温泉宿のPRを図るため、パンフレットを制作した。 	
インバウンド誘客拡大受入環境整備事業	観光課・アジアプロモーション課	49,500	44,657	外国人観光客の誘客を強力に推進するため、これまで実施している観光プロモーション等を継続するほか、東京オリンピックの県内開催等を踏まえ、外国人が安心して旅行しやすい環境の整備に積極的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・松島“湾”ダーランドをPRする多言語対応観光WEBサイトを運営したほか、松島湾エリアのサイクリングコースをPRする動画を作成した。 ・無料Wi-Fiを設置する宿泊施設や観光施設等で構成される団体に対する助成を行った。また、外国人観光客に対するおもてなしや接客英会話・中国語会話を学ぶ研修会を実施した。 ・無料Wi-Fi 交付決定4件 ・研修会30回 受講者延べ330人 	○
二次交通利用拡大事業	観光課	41,000	40,628	民営化した仙台空港の利用拡大、観光周遊の推進に向け、復興観光拠点都市圏を中心とした県内の二次交通の調査・検討の実施及び、プロモーション強化、滞在コンテンツの充実・強化を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台空港から観光地へ向けた直行バス(岩手県北バス)を中心とした二次交通について、外国人の利用実態や利用意向等の調査事業を実施した。 	○

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
航空キャリア提携旅行エージェント誘客促進事業	アジアプロモーション課	10,000	9,999	航空キャリア・提携する旅行会社を招請し、国際線の拡充に向けた誘致に取り組むとともに、広域周遊ルートを柱とした旅行会社による旅行商品の造成を促進する。	・台湾・中国・タイ・韓国・香港・ベトナムを対象に航空キャリア・提携する旅行エージェントの招請を実施した。 航空会社 8社, 旅行会社 126社	○
デジタルコンテンツプロモーション事業	アジアプロモーション課	21,600	21,600	広域観光周遊ルートを柱に東北の魅力を映像・画像により情報発信し、認知度の拡大を図るとともに、マーケティングデータを収集・分析することにより活用を図る。	・東北の夏の魅力をPRする動画を制作し、H28年度に制作した秋冬の動画と併せて動画広告を行った。 再生回数 秋篇 1238万回, 冬篇 1210万回, 夏篇 769万回 ・統計データを収集してマーケティングデータベースを構築し、その分析手法についての人材育成研修を開催した。	○
レンタカーを活用したドライブ周遊観光促進事業	アジアプロモーション課	8,300	8,300	訪日外国人のレンタカーによるドライブ周遊観光を促進するため、受入環境の整備を行うとともに海外におけるプロモーションを行う。	・多言語によるドライブ冊子の制作やホームページの整備により環境整備を進めるとともに、著名タレントの招請や台湾・タイ等の旅行博でのプロモーション等により東北ドライブの魅力発信を行った。	○
冬の東北とスノーコンテンツ等発信事業	アジアプロモーション課	15,000	14,995	冬の東北の魅力である樹氷・スキー場・冬祭り等のプロモーションを展開するとともに、外国人観光客受入の体制整備を行う。	・コンテンツ磨き上げのワークショップを開催した。 ・台湾, 韓国, 中国, 豪州, タイを対象に広告やメディア招請を実施した。 ・国際商談会やイベントに出展し、冬の東北の魅力を発信した。	○
東北太平洋沿岸における受入整備事業	アジアプロモーション課	19,918	19,918	青森県・岩手県・宮城県・福島県・仙台市の太平洋沿岸地域においては東日本大震災後の観光客入込の回復が遅れており、特に外国人旅行者においては風評被害の影響もあり著しく低調な状況が続いていることから、「復興ツーリズム」の推進による外国人観光客の入込拡大を図るため4県1市が連携して対象地域内における受入体制の整備, 受入実証実験, プロモーションを行う。	ホームページの整備及び語り部研修等の開催により受入環境整備を進めるとともに、受入実証実験によるモデルコースの磨き上げ, プロガー等の招請による情報発信を行い魅力ある観光地としての認知度向上を図った。	○
東北観光推進機構等と連携した広域観光の取組強化	アジアプロモーション課	15,000	15,000	大都市圏や海外から東北への誘客を図るため、東北観光推進機構等と連携した取組を行う。	・東北の認知度を向上させ、国内外からの観光客の誘致を推進するため、国内における観光セミナーの開催や国内外における観光プロモーション等を、一体となって実施した。	○
仙台空港 600万人・5万トン実現推進事業	空港臨空地域課	19,548	18,034	仙台空港の民営化を契機とした宮城・東北の地域活性化に向け、空港運営権者・地元企業・関係機関等との連携を促進するとともに、航空旅客の需要創出などに向けた実証事業等を実施する。	・今後利用客の増加が期待されるLCCと連携し、主に台湾からのインバウンドを誘致するためのプロモーションを実施した。 特設サイトアクセス数: 5,325	○
仙台空港利用促進事業	空港臨空地域課	13,979	12,237	仙台空港の路線充実・拡大のため、エアポートセールスを行うほか、航空機を使った旅行需要を喚起するための利用促進事業を行う。	・知事による韓国・中国(大連)でのトップセールス等を実施した。 ・平成29年度の仙台空港乗降客数は、スカイマークによる「仙台-神戸線」の就航や、ピーチによる「仙台-札幌線」「仙台-台北線」の就航により、国内線・国際線共に路線の拡充が図られ、前年度より約27万人増の約343万人となった。	○

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
仙台空港地域連携・活性化事業	空港臨空地域課	29,989	25,963	仙台空港民営化後の、地域にとって望ましい空港運営と周辺地域の活性化に向けて、地域と空港運営権者との連携体制を構築し、関係者が一体となって、空港振興策を展開することにより、空港機能の拡充と旅客・貨物需要の創出を図り、仙台空港を核とした地域経済の活性化を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> 若者を対象にパスポート取得費の一部を助成するキャンペーンを実施し、仙台空港国際線を利用した海外旅行の促進を図った。 タウン情報誌等のメディアを活用し、仙台空港や就航地の魅力を情報発信し、認知度向上を図った。 	○
仙山交流連携促進事業	仙台地方振興事務所	239	220	仙山圏（仙台地域・山形県村山地域）の交流を促進するため検討・協議を行うとともに、仙山交流味祭等において両地域の産業、物産のPRを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 仙山圏において、相互のパンフレット配架等を通じた情報発信を実施した。 仙山圏の「ヒト」「モノ」「情報」の交流の促進及び地産地消推進のため「仙山交流味祭」を支援し、観光PRも行った。 	
岩手・宮城県際広域観光推進事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所、東部地方振興事務所登米地域事務所、気仙沼地方振興事務所	357	357	岩手県と宮城県の県際地域における広域観光の推進を図る（公式サイトにおけるイベントカレンダーの掲載、観光案内所におけるパンフレット等の作成、相互配架）。	<ul style="list-style-type: none"> 岩手・宮城県際広域観光推進研究会公式サイト「南いわて・北みやぎ観光サイト案内所」においてイベント情報の発信を行った。 各事務所のイベント等においてパンフレットを相互配架した。 岩手県南地域等との広域連携として、県際広域観光推進研究会に参画し、情報交換を行った。また、「南いわて・北みやぎドライブマップ（外国語版）を活用した。 「南いわて北みやぎ広域観光案内板」の壁面修正を行った。場所：リアス・アーク美術館 	
観光客に魅力ある受入体制整備事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	784	696	観光客入込数の増加が期待される栗駒山周辺及び伊豆沼・内沼を中心に、観光客が再び訪れたいと感じる受入体制の整備を図る。また、関係機関等と連携しながら積極的に情報発信を行うとともに、イベントやモニターツアーを通じて誘客を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 花山そば祭りの開催を支援した。 関係団体によるワーキングを開催した。 誘客のためのクーポンチラシを2回発行し、3,684名の利用があった。 各種イベント及び観光キャンペーンにおいて誘客PRを行った。 岩手県、秋田県と連携して作成した「栗駒山トレッキングMAP」を増刷した。（1,000部） 「栗原地域観光セミナー：観光促進ネット活用講座」を開催した。（出席40名） 関係機関と連携し、観光資源調査を行った。 	○
	18事業	339,305	326,225			

(4) 観光消費効果の高い県外等からの誘客強化

インターネットや新聞、旅行雑誌をはじめとした多様な媒体や訴求力のあるツールを戦略的に活用し、誘客対象を明確にした上で本県の多様な観光の魅力を発信することで訪問意識を呼び起こすとともに、ポストDC等の様々なプロモーション活動に官民一体で取り組み、首都圏や中部以西等からの誘客促進などに取り組んだ。

(単位：千円)

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
短期集中型の官民が一体となった仙台・宮城観光キャンペーン推進事業（仙台・宮城観光キャンペーン推進事業）	観光課	20,000	20,000	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会の主要な構成員として、地域や旅行関連事業者と連携し、協議会と一体的に観光流動の活性化及び観光開発の推進に向けた取組を行い、誘客促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ガイドブック及びポスターをJR東日本の首都圏における主な駅などに設置・掲出し宣伝した。 首都圏、北海道函館市のほか、北陸では初となる富山県富山市及び石川県金沢市で誘客キャラバンを実施した。 受入態勢整備としては、東日本高速道路株式会社と東北6県が連携し、東北6県全域を対象地域としたスマートフォン版スタンプラリーを実施した。 	○
「みやぎ観光復興支援センター」及び「みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター」設置事業	観光課	39,500	39,500	「みやぎ観光復興支援センター」及び「みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター」を設置して受入態勢を整備するとともに、旅行会社や学校、企業に対して被災地でのボランティアツアーや研修プログラムに関わる情報を提供し、被災地の受入先とマッチングを行う。	<p>【みやぎ観光復興支援センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 被災地に関する情報の収集及び発信、宮城県を訪れたい旅行者と受入先とのマッチング業務を実施した。また、H28まではWEB上の情報発信・PRはブログで行っていたが、H29よりブログに加えホームページ「みやぎ海への旅案内」を開設・運営し、情報発信の強化を行った。 H29 マッチング実績 13件、277人 ホームページ ページビュー数 53,694件 セッション数 17,131件 <p>【みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 台湾からの教育旅行誘致に向けては、現地プロモーションへ参加し、大学等への招請事業を県とともに実施した。 H29 マッチング実績 79校、3,748人（催行日ベース） 	○
みやぎエコ・ツーリズム推進事業	観光課	6,282	6,281	観光地におけるシャトルバス運行事業に対する助成を行う。また、教育旅行のメニューとしてニーズの高い産業観光、自然観光を体験して学ぶエコツーリズムの観光資源の発掘を行うとともに、発掘した観光資源を整理し、メニュー構築を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 観光地でのシャトルバス事業に対する助成については、3事業者に対して助成し、計86便、674名の利用があった。 県内受入施設を対象とした情報交換会を開催し、エコツーリズム体験受入に関する課題等の情報共有を行った。 県内中学校（79校）及び県外小中学校及び高等学校（21校）に対して学校訪問を行い、エコの視点を取り入れた体験学習のPRを実施した。 	○

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
ICT等を活用した観光情報提供事業（ICT観光情報提供事業）	観光課	-	-	本県の「みどころ」「イベント」「風景」など様々な観光情報をICT環境で提供し、ツイッターやFacebookなどのSNS環境での提供についても拡充して行う。	・宮城県観光連盟のホームページにおいて、県内各地の観光情報を積極的に発信しているほか、Facebook及びインスタグラムも開設しており、情報提供の拡充を図った。 ・インスタグラムにて、県内で撮影した写真の投稿コンテストを開催した。	
新聞・雑誌等の活用による誘客促進事業（観光復興緊急対策事業）	観光課	6,036	5,829	新聞や雑誌等を活用した観光情報の提供やパンフレット等の作成。	・雑誌「ハコラク」への記事掲載や新聞等への広告掲載のほか、観光の復興状況を発信するため、冬の観光パンフレットを製作した。	○
フィルムコミッション推進事業	観光課	2,152	2,152	テレビ、映画等の映像媒体によりシティーセールスを行い、宮城県の知名度向上を図るため、テレビ番組、映画、コマーシャル等のロケーション撮影及び誘致の取組を支援する。	・せんだい・宮城フィルムコミッションの所属団体として、映画、テレビ番組、コマーシャル等のロケーション撮影の支援及び誘致の取組に対して支援を行った。 (支援件数186件 撮影実績62件)	
風評被害等観光客実態調査事業	観光課	4,644	4,644	原発事故の風評被害に苦しむ、県内観光事業者の支援や観光施策の展開を検討する上で必要な現状把握を行う。	・「観光入込客統計に関する共通基準」に準拠した調査項目に基づく観光地点パラメータ調査や首都圏、関西圏の在住者及び県内の観光事業者に対し、震災や風評被害に関するアンケート調査を実施した。	
JR東日本等と連携したイメージアップ推進事業（みやぎ観光復興イメージアップ事業）	観光課	3,000	2,965	震災後大きく減少した本県の観光客入込数であるが、平成28年には平成22年比で99%まで回復した。しかしながら、石巻圏域・気仙沼圏域は平成22年比70%と回復状況が大きく遅れている。このため、JR東日本等と連携し、首都圏等において観光PRを実施する。	・首都圏、北海道函館市のほか、北陸では初となる富山県富山市及び石川県金沢市で誘客キャラバンを実施した。 ・丸の内ビルディングで開催された「丸の内東北応援フェア『マル・デ・ミヤギ』」において、観光PRを実施した。	
沿岸部観光復興情報等発信事業	観光課	100,000	99,954	本県にとって最大の市場である首都圏を中心に、沿岸部の観光スポット・イベントや農林水産物に関する情報をマスメディアを複合的に活用するメディアミックスの手法により発信し、沿岸部の交流人口拡大及び地場産品の販路回復を図る。	・PR動画制作・配信 ・テレビ番組の制作・放送 「食彩の王国」内PR露出 「吉田類の酒場放浪記」（全5回） ・東京メトロ車内広告の実施 ・旅行情報サイト内広告実施 ・ウェブ広報の実施	○
教育旅行誘致促進事業	観光課	4,241	4,234	北海道からの教育旅行の誘致及び東北観光推進機構と連携した首都圏等からの教育旅行の誘致を行うとともに、教育旅行の誘致拡大を目指し、北海道及び中部以西の学校関係者や旅行会社の関係者を招請する。	・仙台市等と連携し、札幌・函館で学校関係者や旅行会社に対する説明会及び商談会を実施した。 ・東北観光推進機構が実施する、教育旅行セミナー（東京・大阪）に参加し、本県への教育旅行の誘致を図った。 ・JR北海道が主催した北海道新幹線を使用した東北への修学旅行説明会に参加し、中学校教員及び旅行会社に対して提案を行った。 ・北海道、九州の学校関係者を招請（8月と2月）し、誘致拡大を図った。	
みやぎ路誘客大作戦～秋色満載みやぎ・やまがたの観光～	観光課	-	-	東北自動車道国見サービスエリア等において、臨時観光案内所を設置し、観光情報の発信を行う。	・秋の観光シーズンを前に、国見SA（下り）において、山形県と臨時観光案内所を共同設置し、観光情報の発信を行った。	○

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
冬の観光キャンペーン推進事業	観光課	25,000	25,000	仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会の主要な構成員として、地域や旅行関連事業者と連携し、協会と一体的に観光流動の活性化及び観光開発の推進に向けた取組を行い、冬の重点的な誘客促進を図る。	・観光PR動画の制作・配信を行ったほか、PR動画と連動したプレゼント企画を実施した。 ・みやぎおかみ会と連携し、温泉宿のPRを図るため、パンフレットを制作した。	○
仙台・宮城おもてなし態勢向上事業	観光課	14,820	14,820	仙台・宮城観光PRキャラクター「むすび丸」を活用し、県内外において本県観光のPR活動を行うとともに、着地側でのおもてなしの一環として、JR駅等でのツアー観光客のお出迎えや県民参加によるおもてなしの機運醸成に繋がる事業を展開する。	仙台・宮城観光PRキャラクター「むすび丸」を活用し、首都圏、北陸、道南などで本県の観光PRを実施したほか、JR駅や空港にてツアー観光客のお出迎え・お見送りのおもてなしを実施した。	
東北観光推進機構等と連携した広域観光の取組強化	アジアプロモーション課	15,000	15,000	大都市圏や海外から東北への誘客を図るため、東北観光推進機構等と連携した取組を行う。	・東北の認知度を向上させ、国内外からの観光客の誘致を推進するため、国内における観光セミナーの開催や国内外における観光プロモーション等を、一体となって実施した。	○
県外向け広報事業	広報課	24,612	24,548	テレビ番組を製作・放送し、全国に向けて、宮城の観光資源や食材・物産、復興の状況等をPRする。	・BSテレビによる広報番組の制作・放送を行った。 放送局：BS-TBS 放送時間：毎週月曜 19:54～20:00 放送回数：51回（うち再放送13回） 平均推定視聴世帯数：23.1万世帯 ※参考 平成29年度BS視聴可能世帯数：4,207万世帯	
大規模大会誘致支援事業	オリンピック・パラリンピック大会推進課	-	-	国際大会や全国規模のスポーツ大会を誘致するために、広報活動等を支援する。	・ツール・ド・東北2017 開催日：H29.9.16（土）～17（日） 場 所：東松島市～気仙沼市 参加者：約4,000人 ・東北・みやぎ復興マラソン2017 開催日：H29.9.30（土）～10月1（日） 場 所：名取市、岩沼市、亶理町 参加者：約14,000人 ・クイーンズ駅伝 in 宮城 開催日：H29.11.26（日） 場 所：松島町～仙台市 観客数：約23万人	
首都圏県産品販売等拠点運営事業	食産業振興課	164,850	163,885	首都圏アンテナショップ「宮城ふるさとプラザ」の管理・運営を通じて、県産品の紹介・販路拡張及び観光情報コーナーにおける本県観光の魅力の発信を行う。	・県産品の販売に加え、アンテナ機能の一層の発揮に向け取り組んだ。 年間売上額：502,726千円 年間買上客数：407,303人 観光情報コーナー利用状況：22,750人	
地域イメージ確立推進事業	食産業振興課	2,753	2,568	「食材王国みやぎ」をテーマに、知事等のトップセールス、ウェブサイト及び各種SNSを活用し、宮城の「食」を全国に強力に発信する。	・知事等のトップセールスによる「食材王国みやぎ」のPRを積極的に展開した。 ・県産食材の認知度向上のため、ウェブサイト「食材王国みやぎ」、公式Facebook及び公式インスタグラムにより、旬の食材やメニューレシピ、食に関するイベント情報など食関連情報を総合的に全国へ発信した。 アクセス件数 399,193件（対前年比1.7%増）	

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
物産展等開催事業	食産業振興課	9,752	9,702	全国主要都市の百貨店において物産展を開催し、県産品の展示販売と観光情報を提供する。	・全国5カ所において、「宮城県の物産と観光展」を開催した（そごう横浜展、東急東横展、そごう広島展、名古屋名鉄展、そごう千葉展）。 売上額：281,570千円 出展者数：延239社（うち新規19社）	
仙台空港利用促進事業	空港臨空地域課	13,979	12,237	仙台空港の路線充実・拡大のため、エアポートセールスを行うほか、航空機を使った旅行需要を喚起するための利用促進事業を行う。	・知事による韓国・中国（大連）でのトップセールス等を実施した。 ・平成29年度の仙台空港乗降客数は、スカイマークによる「仙台-神戸線」の就航や、ピーチによる「仙台-札幌線」、「仙台-台北線」の就航により、国内線・国際線共に路線の拡充が図られ、前年度より約27万人増の約343万人となった。	○
「宮城県東京事務所メールマガジン」発行事業	東京事務所	-	-	宮城をより一層知って、身近に感じていただけるよう、首都圏で行われる観光及び物産イベントや復興情報を発信する（「宮城県東京事務所メールマガジン」の発行）	・毎月1回発行し、「宮城ふるさとプラザ」の店内イベント及び首都圏の百貨店での物産フェア、首都圏で行われる観光及び物産イベント情報、復興情報について発信した。（平成29年度：12回）	
（首都圏の）イベント等での観光・復興PR事業	東京事務所	-	-	首都圏でのイベントにおいて、観光パンフレット等の配布や復興をPRするパネルの展示を行い、来場者への情報提供を行う。	・首都圏の企業等主催の復興支援イベント等において、観光パンフレットの配布や復興に関するパネルの展示等を行い、情報提供や観光PRを行った。（平成29年度：延べ134日）	
仙台管内の観光と物産PR事業 in 栃木	仙台地方振興事務所	2,000	1,863	海に面していないが、宇都宮市がすし外食費用日本一であることや、宇都宮市-仙台市間は日帰り圏内であるという特性を活かし、海を中心とした観光スポットや食の魅力、水産加工品を中心とした物販などを通じて、水産品の消費拡大及び沿岸部の観光客誘客促進を図る。	・「とちぎ”食と農”ふれあいフェア」での観光と物産をPRした。 ・銀行等と連携し、水産加工品の販路開拓を目的に商談会を実施した。	○
仙山交流連携促進事業	仙台地方振興事務所	239	220	仙山圏（仙台地域・山形県村山地域）の交流を促進するため検討・協議を行うとともに、仙山交流味祭等において両地域の産業、物産のPRを行う。	・仙山圏において、相互のパンフレット配架等を通じた情報発信を実施した。 ・仙山圏の「ヒト」「モノ」「情報」の交流の促進及び地産地消推進のため「仙山交流味祭」を支援し、観光PRも行った。	○
仙台地域への観光客誘客推進事業	仙台地方振興事務所	508	456	仙台管内の充実した交通アクセス網を最大限に活かし、管内への着地型観光を進めるため、県外からの誘客をメインターゲットに観光PR活動を行う。	・仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会観光誘客キャラバンへの支援を行った。 ・集客のある各種イベントにおいて、仙台管内の観光PRを行った。 ・仙台管内各市町村の周遊促進と管内の観光の現状を把握する目的で観光キャンペーン（9/7～11/30）を実施した。	
最上・雄勝・大崎連携交流事業	北部地方振興事務所	533	520	三圏域に関する観光情報の発信（ブログ運営による情報発信、企業社員研修誘致に向けた情報提供等）及び三圏域合同の観光PRイベントを実施する。	・東北のへそ観光ブログ等による観光情報の発信を行った。 ・仙台圏での合同観光PRイベント「東北の「へそ」三県交流まつり」や秋田県湯沢市での「全国まるごとうどんEXPO」での観光PRを実施した。 ・謝恩旅行（バス会社等）誘致を行った。	

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
観光客に魅力ある受入体制整備事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所	784	696	観光客入込数の増加が期待される栗駒山周辺及び伊豆沼・内沼を中心に、観光客が再び訪れたいと感じる受入体制の整備を図る。また、関係機関等と連携しながら積極的に情報発信を行うとともに、イベントやモニターツアーを通じて誘客を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・花山そば祭りの開催を支援した。 ・関係団体によるワーキングを開催した。 ・誘客のためのクーポンチラシを2回発行し、3,684名の利用があった。 ・各種イベント及び観光キャンペーンにおいて誘客PRを行った。 ・岩手県、秋田県と連携して作成した「栗駒山トレッキングMAP」を増刷した。(1,000部) ・「栗原地域観光セミナー：観光促進ネット活用講座」を開催した。(出席40名) ・関係機関と連携し、観光資源調査を行った。 	○
次代につなぐ登米観光戦略実践事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	1,389	1,278	誘客及び周遊促進のため、観光キャラバンやフォトコンテストの開催、エリアドライブマップの作製を行う。また、インバウンド対策として、観光ガイド等の人材育成や他地域との連携による誘客促進事業を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・登米市観光推進協議会へ参画した。 ・SNSを活用したフォトコンテストを開催した。 ・道の駅等において観光キャラバンを行った。 ・登米エリアドライブマップを作製した。 ・インバウンド対象観光ガイド候補の掘り起こしと育成・派遣システム構築に向けた検討を行い、「登米インバウンドおもてなしワークショップ」を開催した。 ・市内の観光業務従事者向けの情報誌「観光情報虎の巻」を作成した。 	
岩手・宮城県際広域観光推進事業	北部地方振興事務所栗原地域事務所、東部地方振興事務所登米地域事務所、気仙沼地方振興事務所	357	357	岩手県と宮城県の県際地域における広域観光の推進を図る（公式サイトにおけるイベントカレンダーの掲載、観光案内所におけるパンフレット等の作成、相互配架）。	<ul style="list-style-type: none"> ・岩手・宮城県際広域観光推進研究会公式サイト「南いわて・北みやぎ観光サイト案内所」においてイベント情報の発信を行った。 ・各事務所のイベント等においてパンフレットを相互配架した。 ・岩手県南地域等との広域連携として、県際広域観光推進研究会に参画し、情報交換を行った。また、「南いわて・北みやぎドライブマップ（外国語版）を活用した。 ・「南いわて北みやぎ広域観光案内板」の壁面修正を行った。場所：リアス・アーク美術館 	○
	29 事業	462,431	458,709			

(5) 観光資源の魅力の向上と観光客受入態勢の整備拡充

本県の誇る「食」・「温泉」・「自然」・「歴史・文化」・「産業」・「祭」・「プロスポーツ」などの地域の特性を生かしたテーマ性・ストーリー性のある観光メニューの構築やニーズに応じた観光資源を創出するとともに、観光客を迎える立場にある県民による域内流動を促進し地域の魅力に対する理解の向上に取り組んだ。

また、観光客へ快適な旅行を提供するため、DCで培った地域力のさらなる向上、おもてなしを浸透させるとともに、次世代の観光の復興をけん引する人材の育成に取り組んだ。

(単位：千円)

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
魅力あふれる松島湾観光創生事業	観光課	9,981	9,920	県内有数の観光地である松島湾エリアをモデル地域として、エリアの魅力を最大限に引き出すために集中的に事業を推進し、多くの観光客に訪れていただける観光地づくりを目指す。	・広域観光に向けた松島湾エリアの人材を育成するため「松島湾人材育成未来塾」を5回実施したほか、松島湾エリアをPRするガイドブックの更新・発行を行った。	
みやぎ観光戦略受入基盤整備事業	観光課	326,644	161,381	高齢者、子供連れの人、外国人等、あらゆる観光客の安全な利用に配慮した自然公園施設の再整備や、観光客が広域的に移動しやすい環境整備のため、観光案内板等を整備する。	・栗駒地域の世界谷地(第一湿原)(第二湿原)の園地整備、栗駒レストハウス水源対策及び蔵王レストハウス改修工事等を行った。 ・広域観光案内板の表示(道路情報・写真等)の修正を行った。 ・ミニ観光案内所の誘導看板の貼替を行った。	
みやぎエコ・ツーリズム推進事業	観光課	6,282	6,281	観光地におけるシャトルバス運行事業に対する助成を行う。また、教育旅行のメニューとしてニーズの高い産業観光、自然観光を体験して学ぶエコツーリズムの観光資源の発掘を行うとともに、発掘した観光資源を整理し、メニュー構築を行う。	・観光地でのシャトルバス事業に対する助成については、3事業者に対して助成し、計86便、674名の利用があった。 ・県内受入施設を対象とした情報交換会を開催し、エコツーリズム体験受入に関する課題等の情報共有を行った。 ・県内中学校(79校)及び県外小中学校及び高等学校(21校)に対して学校訪問を行い、エコの視点を取り入れた体験学習のPRを実施した。	○
観光王国みやぎおもてなし大賞	観光課	363	194	観光王国みやぎの実現に関し、観光客に対して優良なおもてなしの取組があったと認められる県民等(観光施設、宿泊施設、物産業者、交通機関、旅行者、地域団体等)に対し表彰を行う。	表彰式：平成30年2月6日 大賞：1件、奨励賞：3件、選考委員特別賞：1件	

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
「みやぎ観光復興支援センター」及び「みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター」設置事業	観光課	39,500	39,500	「みやぎ観光復興支援センター」及び「みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター」を設置して受入態勢を整備するとともに、旅行会社や学校、企業に対して被災地でのボランティアツアーや研修プログラムに関わる情報を提供し、被災地の受入先とマッチングを行う。	<p>【みやぎ観光復興支援センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 被災地に関する情報の収集及び発信、宮城県を訪れたい旅行者と受入先とのマッチング業務を実施した。また、H28まではWEB上の情報発信・PRはブログで行っていたが、H29よりブログに加えホームページ「みやぎ海への旅案内」を開設・運営し、情報発信の強化を行った。 H29 マッチング実績 13件、277人 ホームページ ページビュー数 53,694件 セッション数 17,131件 <p>【みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 台湾からの教育旅行誘致に向けては、現地プロモーションへ参加し、大学等への招請事業を県とともに実施した。 H29 マッチング実績 79校、3,748人（催行日ベース） 	○
宮城県観光連盟負担金事業	観光課	25,840	25,840	県内の観光の観光資源の紹介宣伝、観光客の誘致等を目的とする宮城県観光連盟の会員として官民一体となった事業展開を通じて、観光振興を図った。	<ul style="list-style-type: none"> 企画調査事業、情報収集・発信事業、観光客誘致対策事業、観光開発・啓発・研修事業など幅広い事業を実施した。 	
スポーツツーリズムの推進	観光課	-	-	民間等が主体的に開催するマラソンやサイクリング、トレッキングなどの参加型スポーツイベントの開催を支援するとともに、イベント参加者に対する観光情報の提供等による誘客を図る。また、Jリーグやプロ野球、プロバスケットボールなど多くのプロスポーツを観戦する環境に恵まれた本県の特色を生かして、全国から訪れる観戦客に対する本県の観光PRや観戦客向けの旅行商品の造成を促進することなどにより、新たな旅行需要を開拓する。	<ul style="list-style-type: none"> マラソンや駅伝等、スポーツイベント開催時に観光案内所を設置し、参加者等に対し、観光情報の提供を行った。 	
松島公園津波防災緑地整備事業	観光課	922,459	475,541	県を代表する観光地である松島公園について、津波等に対する防災力を強化するとともに、観光地にふさわしい景観にも配慮した整備を行う。また、効果促進事業として、避難路誘導観光看板の整備も併せて行う。	<ul style="list-style-type: none"> 第1・2・3駐車場及び中央広場の排水施設・舗装・照明工事等のほか、駐車場のトイレ改築工事及び松島海岸レストハウス改修工事に着手するとともに、グリーン広場及び第4・5駐車場の造成工事に着手した。 園内の避難路誘導観光看板の整備に着手した。 	
みやぎ路誘客大作戦～秋色満載みやぎ・やまがたの観光～	観光課	-	-	東北自動車道国見サービスエリア等において、臨時観光案内所を設置し、観光情報の発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 秋の観光シーズンを前に、国見SA（下り）において、山形県と臨時観光案内所を共同設置し、観光情報の発信を行った。 	○
観光に関する調査	観光課	-	-	宮城県を訪れる観光客の人数、目的等を調査・分析し、その結果を踏まえて、宮城県への誘客を戦略的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 県観光統計概要調査による観光客入込数や宿泊観光客数等の把握を行った。 	

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
仙台・松島復興観光拠点都市圏事業	観光課	97,000	96,736	仙台市、仙台空港周辺エリア及び松島湾エリアにより「仙台・松島復興観光拠点都市圏」を形成し、観光資源の磨き上げや受入体制の整備といった受入環境の整備に向けて重点的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 仙台・松島復興観光拠点都市圏において具体的な事業を展開するため、同都市圏を構成する6市3町の多様な関係者による観光地域づくりを行う舵取り役となる「地域連携DMO」を設立した。 拠点都市圏を中心とした体験型観光コンテンツ等をPRする着地型の多言語パンフレットを制作した。 	
インバウンド誘客拡大受入環境整備事業	観光課・アジアプロモーション課	49,500	44,657	外国人観光客の誘客を強力に推進するため、これまで実施している観光プロモーション等を継続するほか、東京オリンピックの県内開催等を踏まえ、外国人が安心して旅行しやすい環境の整備に積極的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 松島“湾”ダーランドをPRする多言語対応観光WEBサイトを運営したほか、松島湾エリアのサイクリングコースをPRする動画を作成した。 無料Wi-Fiを設置する宿泊施設や観光施設等で構成される団体に対する助成を行った。また、外国人観光客に対するおもてなしや接客英会話・中国語会話を学ぶ研修会を実施した。 無料Wi-Fi 交付決定4件 研修会30回 受講者延べ330人 	○
三陸地域広域連携インバウンド対応事業	観光課	37,500	7,020	三陸地域については、平成31年度の全面開通に向けて三陸道が延伸されており、気仙沼大島架橋工事平成30年度に竣工する予定であるなど、当該地域の観光客増大が期待できる状況にある。また、当該地域は広域観光周遊ルートである「日本の奥の院・東北探訪ルート」にも指定されており、外国人旅行客の受入環境整備が必要となってくることから、多言語案内板を製作する。	気仙沼市及び南三陸町内の計10ヶ所に多言語案内板を設置した。表示言語は日本語・英語・簡体字・繁体字・韓国語の5カ国語とした。	○
インバウンド誘致促進事業	観光課・アジアプロモーション課	134,076	134,008	外国人旅行客誘致の更なる強化を図り、従来から取り組んできた誘客事業に加えて、宿泊者数増加に寄与する効果的な事業を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 広告掲載やインフルエンサー招請を実施し、首都圏及び北海道からの広域周遊を促進した。 ミシュランガイド宮城2017特別版の英語WEBサイトを開設した。 仙台空港を利用する訪日外国人向け情報発信メディア開設・アプリ配信を行った。 中国向け旅番組を制作した。 韓国を中心とした国内外からの誘客促進を目的に「宮城オルレ」を実施するため、社団法人済州オルレと協定を締結した。 	○
自然公園保全対策事業	自然保護課	1,365	1,085	栗駒山麓における貴重な高山性植生群落の保護復元に向けた取組や金華山島において自然景観保全に向けた森林群落復元のための取組等を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 栗駒山における植生群落の保護復元対策のためのミネヤナギの育成及び植栽を実施したほか、金華山島における植生回復のための防鹿柵の維持・保守を行った。 	
伊豆沼・内沼自然再生推進事業	自然保護課	14,697	14,691	ラムサール条約湿地である伊豆沼・内沼において、水質悪化、水鳥飛来種の減少、オオクチバス等外来種による食害等が見られることから、沼の生物多様性の保全を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 沈水植物の復元に向けた取組やハスの刈取り等を実施したほか、水質改善効果の検討調査を実施した。 	

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
伊豆沼・内沼よみがえれ在来生物プロジェクト	自然保護課	13,300	12,917	伊豆沼・内沼において、外来生物の駆除及び在来生物が生息・生育しやすい環境を創出・増殖させるモデルケースを実施して技術確立し、同様の問題を抱える県内の湖沼へ技術を普及及び啓発させる取組を行う。	・オオクチバス等の外来生物の駆除に取り組んだほか、ゼニタナゴやクロモなどの在来生物の増加対策を実施した。 ・電気ショッカーボートを購入し、市に貸与して外来魚駆除の技術の普及を行った。	
みやぎラムサールトライアングル魅力発信事業	自然保護課	408	160	関係者の連携のもと、伊豆沼・内沼、蕪栗沼・周辺水田及び化女沼の3つのラムサール条約湿地を有機的に結び付け、湿地の賢明な利用について普及啓発を図るとともに、3湿地の魅力を発信し、来訪者の誘致を目指す取組を行う。	・関係者による打合せ会を開催したほか、普及啓発のために「みやぎラムサールトライアングルマップ」の中国語(繁体字)版を作成した。また、「ガン類の水田利用調査研修会」を開催した。	
県産ブランド品確立支援事業	食産業振興課	2,952	2,417	宮城県の観光のPRポイントである農林水産物から多数の県産ブランド品が創出されるよう、県産食材のブランド化戦略の構築や実需者とのマッチングなどにより県内事業者を支援する。	・県産食材を使用し、消費者等を対象とした首都圏の有名ホテル等での「食材王国みやぎフェア」が12回661日間開催され、料理人・バイヤー等を生産現場に招へいする「みやぎ食材出合いの旅」を11回実施した。 ・宮城県認証食品の認証及び普及により、県産食材の販路拡大やブランド化の取組に対して支援を行った。 新規・更新数50事業者142商品	
食材王国みやぎ地産地消推進店登録推進事業	食産業振興課	140	103	年間を通して県産食材を使用した料理を提供する県内の飲食店及び宿泊施設を「地産地消推進店」に登録し、その店舗を観光客に情報発信を行う。	・地産地消推進店の取組を広くPRすることにより、県産食材の認知度向上を図り、消費拡大につなげた。 ・登録店舗数426店舗(平成30年3月末現在)	
みやぎ農山漁村交流促進事業	農村振興課	9,200	5,948	農林漁業体験受入に取り組む地域グリーン・ツーリズム実践団体に宿泊体験や情報発信PR活動等に係る事業費を補助し、都市と農山漁村の交流促進を図る。	・農泊を含む農林漁業体験の補助を11件実施した。 ・民泊体験パンフレット、農村振興マップを作成し、情報発信を行った。 ・インバウンド等の受け入れを促進するため、農林漁業体験民宿8軒の民間予約サイト掲載を支援。	
グリーン・ツーリズム促進支援事業	農村振興課	2,979	2,233	グリーン・ツーリズム第4期行動計画を踏まえた県全体のグリーン・ツーリズム活動の底上げにより、都市農村交流人口の増加を図る(推進環境整備(相談窓口の充実)、実践者等育成事業、みやぎグリーン・ツーリズム推進協議会支援事業)。	・グリーン・ツーリズム専門アドバイザー派遣では、3団体が活用し、課題解決を図った。 ・実践者スキルアップ研修会(アレルギー対応、農泊と民泊新法研修会等)を実施した。 ・みやぎGT推進協議会に対し、補助金交付による活動支援を行った。	
仙台空港地域連携・活性化事業	空港臨空地域課	29,989	25,963	仙台空港民営化後の、地域にとって望ましい空港運営と周辺地域の活性化に向けて、地域と空港運営権者との連携体制を構築し、関係者が一体となって、空港振興策を展開することにより、空港機能の拡充と旅客・貨物需要の創出を図り、仙台空港を核とした地域経済の活性化を促進する。	・若者を対象にパスポート取得費の一部を助成するキャンペーンを実施し、仙台空港国際線を利用した海外旅行の促進を図った。 ・タウン情報誌等のメディアを活用し、仙台空港や就航地の魅力を情報発信し、認知度向上を図った。	○

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
景観形成事業	都市計画課	6,053	2,245	市町村の美しい景観形成のための取組を支援する（アドバイザー派遣、セミナー開催等）。	<ul style="list-style-type: none"> ・景観アドバイザーの派遣等により、市町村の景観形成への取組を支援した。 ・市町村の景観計画策定を支援するため、計画策定の手法や事例紹介を行う「景観セミナー」を開催した。 ・仙南地域において広域景観を形成するため、協議会を設置・開催し、意見交換等を行った。また、同地域における機運醸成を図るため、「景観フォーラム」を開催した。 	
屋外広告物規制事業	都市計画課	15,427	14,810	屋外広告物条例に基づき、屋外広告物の設置及び屋外広告業に関する規制を実施するとともに、違法はり紙のボランティアによる除却活動を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外広告物の監視を強化するため、監視員を設置し、違反広告物の是正指導、除却等を行った。 ・ボランティアによる違反広告物除去活動を支援し、まちの美観の維持を図った。 	
県立高校将来構想推進事業（観光科新設事業）	高校教育課	-	-	平成26年度に新設した松島高校観光科において、「日本三景松島」等の観光資源を学習素材に、コミュニケーション能力を高めるとともに、おもてなしの心を育み、「観光王国みやぎ」の実現に向けて観光産業や関連する産業に貢献できる人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・松島町内外の有識者を委員とする松島高等学校観光科サポート委員会を設置し、松島周辺地域や県内各地の事業所の協力を得て、観光客の案内や各種イベントのスタッフとして活動するなど松島町を中心に県内の観光資源を活用した学習活動を展開した。また、国内外から松島を訪れた修学旅行生等を対象に松島観光ガイドを実施した。 ・観光科サポート委員会の開催（2回、委員21人） ・県内の観光資源を活用した学習活動（イベント数26、延べ2598人） ・国内外修学旅行生への松島観光ガイド、台湾修学旅行生への松島観光英語中国語ガイドの実施（ガイド数14、延べ425人） 	
みやぎ蔵王三十六景推進事業	大河原地方振興事務所	1,498	1,430	「みやぎ蔵王三十六景」の活用により、景観、食、温泉地といった地域資源を活かし、連携した取組により、食と観光のブランド化を図り、広域観光の一層の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「みやぎ蔵王三十六景地域の逸品」推奨品の増加（新規4品、計55品）及びPRリーフレット作成（5,000部）。 ・仙南地域の新たな魅力の発掘・PRを目的としたフォトキャンペーンを夏・秋・冬の3シーズン実施（計160件・425作品の応募）。 ・仙南地域の周遊促進と効果的な誘客のため、夏は「体験」、秋は「食」、冬は「雛」をテーマに、市町が各自で実施している観光イベントの共同PR3回実施（ポスター：各150部、リーフレット：夏・秋各3万部、冬2万部作成）。 ・誘客と温泉地間の周遊を図るため、みやぎ蔵王温泉郷の旅館・ホテルが地元産のテーマ食材を使ったメニューを提供する「地産地消キャンペーン」を2回開催（①第1弾：10月～11月、②第2弾：12月～2月）。 	

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
古道散策・街歩き等に 係る観光資源活用事業	北部地方振興 事務所	324	292	松尾芭蕉が旅した「おくのほそ道」 を観光資源として磨き上げ、誘客 促進を図る。	・「おくのほそ道散策マップ ～出羽 街道中山越 芭蕉の道を訪ねて～」 を制作した。 ・おくのほそ道の一部をコースに含 む「みやぎ大崎鳴子温泉郷ツーデー マーチ」の開催を支援した。	
最上・雄勝・大崎連携 交流事業	北部地方振興 事務所	533	520	三圏域に関する観光情報の発信 (ブログ運営による情報発信、企 業社員研修誘致に向けた情報提供 等)及び三圏域合同の観光PRイベ ントを実施する。	・東北のへそ観光ブログ等による観 光情報の発信を行った。 ・仙台圏での合同観光PRイベント「東 北の「へそ」三県交流まつり」や秋 田県湯沢市での「全国まるごとど ん EXPO」での観光PRを実施した。 ・謝恩旅行(バス会社等)誘致を行 った。	○
仙山交流連携促進事 業	仙台地方振興 事務所	239	220	仙山圏(仙台地域・山形県村山地 域)の交流を促進するため検討・ 協議を行うとともに、仙山交流味 祭等において両地域の産業、物産 のPRを行う。	・仙山圏において、相互のパンフレ ット配架等を通じた情報発信を実施 した。 ・仙山圏の「ヒト」「モノ」「情報」 の交流の促進及び地産地消推進のた め「仙山交流味祭」を支援し、観光 PRも行った。	○
観光客に魅力ある受 入体制整備事業	北部地方振興 事務所栗原地 域事務所	784	696	観光客入込数の増加が期待される 栗駒山周辺及び伊豆沼・内沼を中 心に、観光客が再び訪れたいと感 じる受入体制の整備を図る。また、 関係機関等と連携しながら積極的 に情報発信を行うとともに、イベ ントやモニターツアーを通じて誘 客を図る。	・花山そば祭りの開催を支援した。 ・関係団体によるワーキングを開催 した。 ・誘客のためのクーポンチラシを2 回発行し、3,684名の利用があった。 ・各種イベント及び観光キャンペ ーンにおいて誘客PRを行った。 ・岩手県、秋田県と連携して作成し た「栗駒山トレッキングMAP」を増刷 した。(1,000部) ・「栗原地域観光セミナー：観光促進 ネット活用講座」を開催した。(出席 40名) ・関係機関と連携し、観光資源調査 を行った。	○
岩手・宮城県際広域観 光推進事業	北部地方振興 事務所栗原地 域事務所、東 部地方振興事 務所登米地域 事務所、気仙 沼地方振興事 務所	357	357	岩手県と宮城県の県際地域におけ る広域観光の推進を図る(公式サ イトにおけるイベントカレンダー の掲載、観光案内所におけるパン フレット等の作成、相互配架)。	・岩手・宮城県際広域観光推進研究 会公式サイト「南いわて・北みやぎ 観光サイト案内所」においてイベ ント情報の発信を行った。 ・各事務所のイベント等においてパ ンフレットを相互配架した。 ・岩手県南地域等との広域連携とし て、県際広域観光推進研究会に参画 し、情報交換を行った。また、「南い わて・北みやぎドライブマップ(外 国語版)を活用した。 ・「南いわて北みやぎ広域観光案内 板」の壁面修正を行った。場所：リ アス・アーク美術館	○

事業名	担当課	予算額	決算見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
交流人口拡大・にぎわい創出支援事業	東部地方振興事務所	700	457	石巻圏域のNPO等地域づくり団体は、コミュニティ維持や交流人口拡大、地域福祉の推進など様々な活動を通じて、各地域で重要な役割を果たしていることから、地域づくり団体同士が改めてお互いの活動を共有し、石巻地域の復興や賑わいづくりに向けたこれからの地域づくりのあり方を一緒に考えていくための交流会を開催した。	開催日：平成30年3月24日（土） 場 所：石巻合同庁舎 大会議室 内 容：①第1部 活動発表（90分） ②第2部 分科会（60分+30分） ③第3部 全体交流会 出席者：観光関係者、観光協会、NPO等地域づくり団体、地域住民、行政担当者等 約40名	
観光と食の魅力発信支援	東部地方振興事務所	485	368	東日本大震災により壊滅的な被害を受けた石巻地域への交流人口の拡大や食産業の販路拡大等を促進するため、地域団体や観光施設等との連携強化や「食」に関する情報発信など、多角的な支援を実施した。	<観光と食の魅力発信> ・食材王国みやぎ みやぎうまいもの市「いしのまきフェア」 開催日：平成29年6月23日（金）～6月25日（日） 場 所：イオン仙台幸町店 開催日：平成29年6月30日（金）～7月2日（日） 場 所：いしのまき元気いちば 開催日：平成29年7月11日（火）～16日（日） 場 所：東北電力ビル 開催日：平成29年11月3日（金・祝）～11月5日（日） 場 所：イオン石巻店 開催日：平成30年2月21日（水） 場所：石巻市水産総合振興センター（石巻魚市場） <大型イベントとの連携> ・「Reborn-Art Festival×ap bank fes2017」への参加 開催日：平成29年7月28日（金）～30日（日） 場 所： 国営みちのく杜の湖畔公園 ・「ツール・ド・東北2017」への参加 ア 実施日：平成29年9月16日（土） イ 場 所： 石巻専修大学イベント会場	
次代につなぐ登米観光戦略実践事業	東部地方振興事務所登米地域事務所	1,389	1,278	誘客及び周遊促進のため、観光キャラバンやフォトコンテストの開催、エリアドライブマップの作製を行う。また、インバウンド対策として、観光ガイド等の人材育成や他地域との連携による誘客促進事業を行う。	・登米市観光推進協議会へ参画した。 ・SNSを活用したフォトコンテストを開催した。 ・道の駅等において観光キャラバンを行った。 ・登米エリアドライブマップを作製した。 ・インバウンド対象観光ガイド候補の掘り起こしと育成・派遣システム構築に向けた検討を行い、「登米インバウンドおもてなしワークショップ」を開催した。 ・市内の観光業務従事者向けの情報誌「観光情報虎の巻」を作成した。	○

事業名	担当課	予算額	決算 見込額	事業概要	平成29年度実施状況	再掲
エンタメコンテンツ で大崎創生	北部地方振興 事務所	2,000	1,949	エンターテインメントツーリズムに 着目し、若い世代も取り込める体 験型ゲームを開催し、誘客増加を 図る。	・伊達政宗公生誕 450 周年に合わせ、 政宗公ゆかりの観光名所や神社仏閣 等の歴史資源をモチーフとした「周 遊型戦国謎解き絵巻「独眼竜の軌 跡」」を開催した。	
気仙沼観光推進機構 (気仙沼版 DMO)	気仙沼地方振 興事務所	-	-	交流人口の拡大による経済効果を 生み出し「観光で稼げる地域経営」 を実現するための体制（気仙沼観 光推進機構（気仙沼版 DMO））を整 備し、関連する取組を推進する。	・「インバウンド部会」に参加し、県 事業に関する情報を提供しているほ か、当所実施事業の検討にあたり、 参考意見を聴取する機会とした。	
	37 事業	1,753,964	1,091,417			

6 基本計画の実施状況の検証

- 平成23年3月11日に発生した東日本大震災による壊滅的な被害と福島第一原子力発電所事故の影響を受けて、平成23年の観光客入込数は前年比約3割減の4,316万人まで落ち込んだ。震災以降、県ではみやぎの観光の創造的復興とさらなる飛躍のため、被災した宿泊施設等の集客施設の復旧支援を行うとともに、観光キャンペーンを実施するなど、沿岸部の観光復興と交流人口の拡大による地域の活性化に取り組んできた。
- 震災復興7年目となった平成29年度は沿岸部を中心とした観光施設の復旧支援の継続や、風評被害対策としての正確な観光情報の発信など、震災復興計画の「再生期」におけるみやぎの観光の再生の為に取組を継続しながらも、平成30年以降の「発展期」につながる施策を積極的に展開した。
- 具体的な取組としては、仙台・宮城【伊達な旅】夏キャンペーン2017「涼・宮城の夏」の開催のほか、本県の温泉を中心とした冬の魅力を発信するため、「宮城湯渡軍団」による冬の観光キャンペーンを初めて実施し、交流人口の回復に向け、宮城の魅力のPRを図った。また、東北地方の観光復興の拠点となる仙台市、松島湾及び仙台空港周辺を含むエリアを対象に「仙台・松島復興観光拠点都市圏」を形成し、圏域の6市3町と協同し、圏域全体をマネジメントする地域連携DMO「株式会社インアウトバウンド仙台・松島」を設立した。
- 外国人観光客の誘致に向けては、主要ターゲットである東アジア市場（台湾・中国・韓国・香港）を中心に、海外旅行博などでの各種プロモーションや台湾市場での教育旅行誘致に向けた取組、東北観光推進機構と連携したインセンティブツアーの誘致や情報発信等を行った。特に香港においては、東北六県及び新潟県の知事等によるトップセールスを実施したほか、上海・北京においては現地サポートデスクを設置するなどの誘客促進を行った。また、韓国を中心とした国内外からの誘客促進を目的に「宮城オルレ」を実施するため、社団法人済州オルレと協定を締結した。
- その結果、平成29年の「観光客入込数」は過去最高の6,230万人で、前年と比較し2.4%増の147万人の増加となり、震災前の平成22年(6,129万人)を上回った。また、「宿泊観光客数」は953万人で、前年度と比較し、3.4%増の31万人の増加となり、震災前の平成22年(805万人)を上回り、過去最高を更新した。さらには「訪日外国人数」が「外国人観光客宿泊者数」について25.2万人と過去最高となっており、平成29年の国の訪日外客数が過去最高の2,869万人を記録している中で、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、今後、更なる増加が期待される。
- このように平成29年の観光客入込数や宿泊観光客数、外国人観光客宿泊数がいずれも過去最高を記録しており、沿岸部の観光客の回復の遅れや外国人観光客の全国の伸びから見た遅れなど本県の観光を取り巻く環境は依然として厳しい状況あるものの、インバウンドへの対応強化、観光施設等の再生・復旧や沿岸部を中心とした観光素材等の情報発信に取り組んできた成果は確実に現れてきていると考えられる。
- 以上のことから、第3期みやぎ観光戦略プランの最終年である平成29年度は、「地域が潤う、訪れてよしの観光王国みやぎの実現」及び「多様な魅力を持つみやぎの観光の再生」のための施策を着実に展開してきたものであり、平成30年3月に策定された第4期みやぎ観光戦略プランの基本理念である「観光の再生から未来につなぐ新たなステージへ」につながる成果が出ているものと判断する。